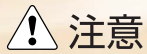


施工要領書

VICTAULIC®



注意

- ヴィクロック (VLG型) を施工される前に必ずお読み下さい。
- この施工要領書の手順に従って施工しない場合は脱管、などの事故となります。

〔(一財)日本消防設備安全センター認定適応管種:VLG-X型〕
JIS G 3452, 3454, 3459, 評定番号:評2020-005号(型式記号:FAST10 使用最高圧力1.4MPa)

品名	使用最高圧力
VLG	2.0MPa

1 部品の確認と準備する物

- ハウジング (2セクション)、ゴムリング (1本)、ボルトナット (2本) の部品点数を確認して下さい。
- 組立て用のスパナ、及び潤滑剤を準備して下さい。潤滑材=シリコングリス、又は滑らかスプレー (当社販売品)

2 管端シール部のチェック

- 管端及び管端部はほぼ直角であり真円であること。
- 溝加工が正確に行なわれているか確認して下さい。
- 指触により、シール部が滑らかである事を確認して下さい。
軸方向のキズ、及び塗料の凹凸はグラインダー・サンドペーパー等により滑らかに仕上げてください。

3 サビ止め塗装

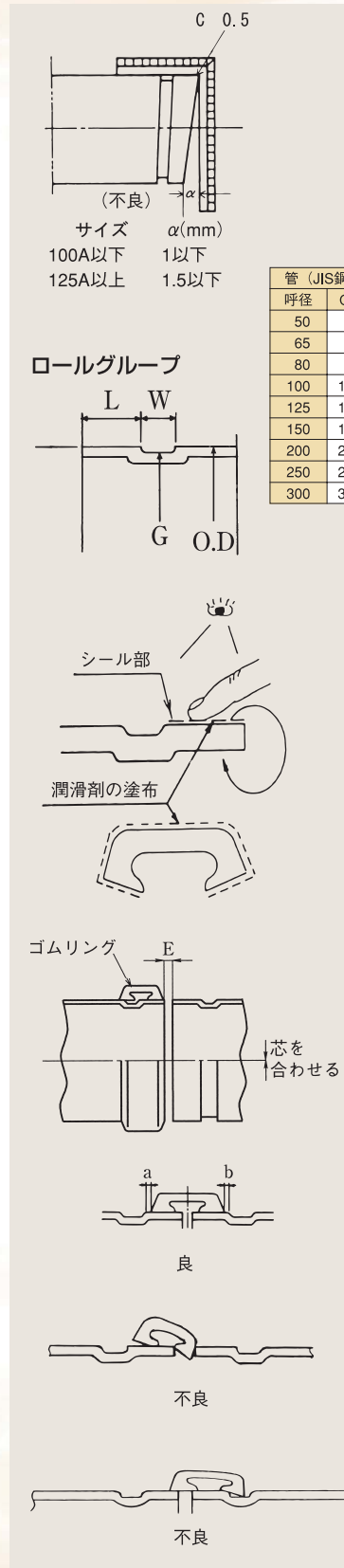
- 恒久配管の場合はシール部にサビ止め塗装を行ってください。
塗料=ヘルメシール30V (当社販売品)
- ジンクリッチ、ローバルなど粒子が粗い塗料は通水性があり漏水の原因となりますので使用しないで下さい。

4 潤滑剤の塗布

- 組立不良防止の一環としてシール部及びゴムリングには必ず、潤滑剤を薄く塗布して下さい。

5 ゴムリングの取付け

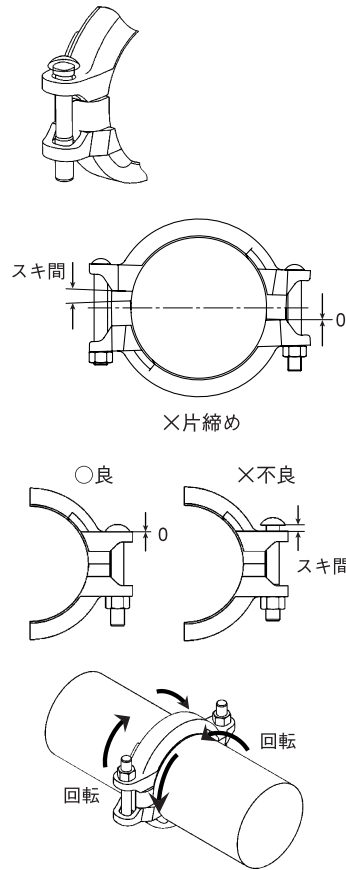
- 最初にゴムリングを引き伸ばす様にして片側の接続管にはめ込みます。この時金へらなどを使用するとゴムをキズつけますので使用しないで下さい。
- 接続管のレベルの確認を行い、芯ずれが生じている場合は支持金物等の調整によりレベルを合わせて下さい。
- 接続管同志の隙間はE_{max} (2mm) 以内として下さい。
- 以上の確認終了後、ゴムリングを接続管のほぼ中央 (a ≒ b) に移動して下さい。
- ゴムリングの1部分がパイプのスキマに落ちていないか確認して下さい。



管 (JIS鋼管)		管端加工寸法				管端部許容最大外径
呼径	O.D.	シール面幅L	溝幅W	溝径G	溝周長C	
50	60.5	16.0 ^{+0.4} _{-0.9}	8.7 ± 0.8	56.9 ⁰ _{-1.0}	178.8 ⁰ _{-3.1}	62.0
65	76.3	16.0 ^{+0.4} _{-0.9}	8.7 ± 0.8	72.2 ⁰ _{-1.0}	226.8 ⁰ _{-3.1}	77.8
80	89.1	16.0 ^{+0.4} _{-0.9}	8.7 ± 0.8	84.9 ⁰ _{-1.0}	266.7 ⁰ _{-3.1}	90.6
100	114.3	16.0 ^{+0.4} _{-0.9}	8.7 ± 0.8	110.1 ⁰ _{-1.0}	345.9 ⁰ _{-3.1}	116.8
125	139.8	16.0 ^{+0.4} _{-0.9}	8.7 ± 0.8	135.5 ⁰ _{-1.0}	425.7 ⁰ _{-3.1}	142.3
150	165.2	16.0 ^{+0.4} _{-0.9}	8.7 ± 0.8	160.8 ⁰ _{-1.0}	505.2 ⁰ _{-3.1}	167.7
200	216.3	19.0 ± 0.8	11.9 ± 0.8	211.6	664.8 ⁰ _{-3.1}	219.8
250	267.4	19.0 ± 0.8	11.9 ± 0.8	262.6	825.0 ⁰ _{-3.1}	270.9
300	318.5	19.0 ± 0.8	11.9 ± 0.8	312.9	983.0 ⁰ _{-3.1}	322.0

溝周長 (C) = G × π





御不明な点がございましたら、下記に御連絡下さい。



日本ヴァクトリック株式会社

本社 03(5114)8531
 大阪支社 06(6341)3556
 名古屋支社 052(223)8251

福岡支社 092(431)8208
 札幌支社 011(241)0021
 滋賀工場 077(553)5121

神戸工場 078(994)6721

